



日光の宝を後世に！ 伝統を守る職人

伝統工芸士
 いはらみほ
伊原実穂さん

職人 人家系の3代目で県内外の社寺の彩色など文化財修理で活躍する他、日光彫に日光堆朱塗を施す伝統工芸に携わる伊原実穂さんを紹介します。現在、2児の母でもある伊原さんは、仕事に子育てに全力で向き合っています。

◎ **職人になるきっかけ**

職人である父の背中を見て育ってきたこともあり、幼稚園の園庭から見える社寺を見て「いつか私があれば直したい」と思っていました。中学生の頃には、父の仕事ぶりに興味を持ち、同じ道を進むことを決めました。高校卒業後、石川県で人間国宝から漆塗りの技術を学び日光へ戻ってきました。

現在は、日光の社寺の調査・塗り・彩色の作業を行っています。

◎ **仕事で大切にしていること**

国宝など貴重な文化財を相手にするため、常にプレッシャーを感じています。数十年後、次に修繕作業をする職人に「前の世代の職

人は上手いな」と思われるように、平成の職人として恥じない仕事かしたいです。

◎ **思い出深い仕事**

次男が在園中だった2年前、花御堂(幼稚園の花まつりで使用される小さいお堂)を修理しました。私が在園していた以前から使用されてきたものです。次男に手伝いをさせながら一緒に直しました。金箔でピカピカになったお堂を見た先生たちはとても喜んでくれ、やっとうとつ恩返しのできた気がしました。

◎ **子育てと仕事の両立について**

また、これから時代を通して子どもたちに見てもらえると思うのとでもうれしいです。母であり、職人である私だからこそその仕事だと思えました。

この仕事は想像以上に集中力と体力を使います。休日も道具を整えたり調査をしたりと、生活のほとんどが仕事になってしまいます。そのため、仕事と家庭の両立が難しく、女性は結婚や育児を機に辞めざるを得ないのが現状です。夫は同じ業界で、私の仕事に理解があるため、積極的に子ども



県の伝統工芸士の認定を受けた伊原さん

◎ **今後の目標**

この業界は、まだまだ女性が少ないため、これから職人を目指す女性が働きやすい環境になるよう道筋を作っていきたいと思っています。そして何より、地元之宝を私たちが責任を持って守っていききたいです。

♡ **インタビューを終えて…**

「子育ても仕事も、どちらも中途半端にはしたくないです」と話してくれた伊原さん。子どもたちも伊原さんの仕事に興味を持ち始めたそうです。インタビュー中も笑顔の絶えなかった伊原さんですが、言葉の一つ一つに職人としての強さが見えたような気がしました。